



沖縄大学 名誉教授

子ども・若者の 居場所づくりと現代

どんなに困難な状況に置かれても、私たちは身近なところで「子ども」が生まれたと聴くと、思わずほほえんでしまう。

そして、何かしらホッと、安心した気持ちになることを経験している。

子どもという存在には、現実を越え「未来」を切り拓いていく「希望」とつながっている何かしら「可能性」への期待が内包されているものである。

したがって、どんなに苦しくても「子ども」がいれば勇気がわいてくることを私たちは知っている。

こうした実感に支えられて、人類はこの長い歴史を、たとえ困難があっても一つ一つ乗り越え、生き続けてきたのである。

こうした視点で現在の社会を見てみると、せっかく「未来」や「希望」を秘めて生まれてきた子どもたちが、生き生きとした輝きを失い、元気がなくなっているこ

とに私たちは気づかされる。

どの家庭でも、子どもたちは元気に走り回り、いたずらをし、群れて遊んでいた。

地域社会の中では、年長の子どもから幼い子どもたちまでが一緒になって遊んでいる風景が当り前のことであった。

しかし、日本の戦後社会の中で高度経済成長が進むと、地域で遊ぶ子は少なくなり、多世代同居の家庭から親子だけの核家族が増加し、一人っ子も増えてきた。家庭の中と、学校と塾だけが生活の場で、地域社会の中で走り回る子どもの姿もめっきりと減ってしまった。

さらに、低成長経済時代に入ると、いつ倒産するか、失業するか分らない不安と、低賃金、長時間労働、無保険などの労働条件の悪化や不安定な非正規雇用の増加によって、子どもとじっくり関わる時間を生み出す余裕のない家庭も多くなってしまった。

成長過程にある子どもにとって、何よりも必要なものは「衣食住」の保障と、豊かな人間関係、そして様々な生活体験、文化的な経験である。

しかし、余裕のない経済環境と、自由に集まり遊べる空間や場の喪失によって、子どもたちの成長環境は失われ、様々な人との出会いや体験によって、

と担任の訪問も提案も一切拒否した。



そして、

加藤 彰彦さん AKIHIKO kato

PROFILE

小学校教諭、横浜市立寿生活館（ソーシャルワーカー）、児童相談所（児童福祉司）を経て、1994年より横浜市立大学国際文化学部人間科学科教授。2002年からは沖縄大学人文学部福祉文化科学科教授、子ども文化学科教授を歴任、2010年に沖縄大学学長に就任。2013年に沖縄大学を退官され、現在は、神奈川に拠点を置きつつ、沖縄でも精力的にご活躍中。「野本三吉」のペンネームで著書多数。

自分のやりたいこと、やれること、将来への夢や希望を紡ぎ出すことすらできない状況に置かれている。

いじめや不登校、ひきこもりといった現象すら生まれ、子どもたちから笑顔も希望も失われて久しい。

こうした現実から、子ども・若者たちが生き生きと生きられる社会に変えることが、私たち大人にとって最大の課題であることが明らかになっている。

そのためにもまず取り組むべきことは、子ども・若者たちが求めていること、望んでいることを聴き取り受け止めることである。

子どもたちと日常的に関わっているグループや団体の人々を中心に、子どもの声に耳を傾け、集まってきた内容を整理し共有化することで、子ども・若者たちの願いが集約されてきたら、子ども・若者たちと直接に話し合うことを含め、その実現のために共同の作業が必要になってくる。

地域の様々な団体（自治会、民生委員児童委員協議会、各種団体）や子ども・若者関係の機関（児童館、公民館、学童クラブ、学校）、さらに行政、社協などとの話し合いも必要になる。

そして何よりも、子ども・若者たちが地域の中で安心して自由に集まることのできる場が重要な交流の拠点となっていくに違いない。

子ども・若者の居場所とは、子どもだけに限定した場ではなく、どんな子どもでも、一人でも自由に行くことのできる場であることを前提に、地域にいる人もすべて行くことのできる場であることが望ましい。

高齢な方や障がいのある方、外国籍の方など、住民なら誰でも行くことのできる場としてつくりあげられることで、子どもたちは地域に暮らす様々な人と出会え、多様な世界を知る体験ができる。

そこには、子ども・若者の支援コーディネーター（ユースソーシャルワーカー）のような担当者がいて、出会いの場をコーディネートしてくれると、より一層交流の輪が広がる。

現代社会の生きにくさの根底には、人と人のつながりが断ち切れ、孤立している現実があり、そのつながりを再構築することが、子ども・若者の希望への第一歩となるはずである。

子どもたちが地域に愛着を持ち、近隣の人々を信頼していくことの中で、子どもたちは将来への夢や希望を見つけていく。

子ども・若者はエネルギーな地域の担い手であり、彼らを中心に新しい地域社会をつくり出していくこと、それが「子ども・若者の居場所づくり」の目標である。

この作業は、子ども・若者たちのためであるのは当然だが、私たち一人ひとりのためでもあり、祖父母から孫たちへつなぐ、歴史と文化継承の仕事でもある。すべての活動の根源は、共に「居場所」（暮らし）をつくる場所にあると私は思っている。

とだけ話した。
うっかりアドバイスなどして、
それが伝わるとまた
拒否の対象になると考えたからだ。



そんな中、
両親と話し合って、



不登校の子ども、ひきこもりの若者の居場所づくりや学習、就労支援

認定特定非営利活動法人 アンガージュマン・よこすか

理事長 島田 徳隆さん NORITAKA shimada

PROFILE 1973年横須賀市生まれ 神奈川県立横須賀高等学校卒 大学卒業後東京のサポート校にて訪問相談員、横須賀市青少年課非常勤職員を経て認定特定非営利活動法人アンガージュマン・よこすかの職員となる。2012年6月同理事長に就任。和服・アロハ・スーツ、どれでも着こなすアンガージュマンの大黒柱。



そして彼には内緒で
両親と会い続ける
選択をしたのだった。



1. 気持ち・体力・スキルを高める就労支援プロジェクトでパソコン習得中 2. 学習支援の様子 3. 石井農園で農業体験をしている 4. フリースペースでのお菓子作りの様子 5. はるかぜ書店の絵本コーナー。なかなかの売れ筋 6. 横須賀駅から歩いて7分の商店街の一角に書店はある 7. 商店街の福引イベントでお客様に景品受け渡しの就労実習。

自分らしい生き方を手に入れる場所

1998年、横須賀市教育委員会の適応指導教室に集まる不登校の子をもつ保護者が集まり設立された自助グループがアンガージュマン・よこすかの前身です。その後、2004年に行政の補助金を活用し、商店街の空き店舗（現在地）を借りてアンガージュマン・よこすかが開設しました。アンガージュマンはフランス語で「社会参加」の意。当団体に集まる人たちが社会参加することを願って名付けられました。団体の運営は今だに困難を極めていますが、自主事業と補助金等で運営をしてきました。2015年に県に認定をされたため、寄付を頂きやすい環境を整えました。設立10数年ですが次世代に引き継ぎをしており、創業時の理念を念頭に置き、日々の活動に取り組んでいます。

不登校の子ども、ひきこもりといわれる大人の支援のために、いつでも来られ安心して過ごせる居場所を設けたフリースペース事業、学習の遅れに対する不安を解消するための学習支援事業を始めました。大人たちが社会参加を目指す就労支援事業も中途から実施しています。就労支援事業の核は当法人が運営する書店での実践的な研修です。

フリースペースではゆっくりと過ごしてもらえよう、畳敷きでゴロンと寝転がれるようにしています。ゲームをしたり、読書をしたり、絵を描いたり自由で過ごすことができます。自宅の茶の間のような雰囲気ですが、色々な人（職員、支援者など）が出入りするため、お互いに影響し合う関係ができることが自宅とは異なる点です。ここでしばらくエネルギーを充電してから学校や社会に戻っていきます。

学習支援は1対1の個別指導にこだわって実施しています。生活保護世帯の学習支援も受け入れており、様々な課題を持った子たちが利用しています。学習指導を通じて信頼できる大人とコミュニケーションを学ぶ場となっています。学校や家庭ではない、第3の居場所としての機能を重視しており、学校に通っている子たちも多く利用しています。一緒に食事をしたり、じっくり話を聞くなど子どもたち

に温かく粘り強く寄り添ってくれる講師が揃っています。

就労支援では、書店の様々な仕事に取り組みます。仕事を学ぶこともさりながら、配達や来店するお客様から学ぶことが多くあります。古い商店街ならではのお客様たちは慣れない店員さんの対応もお手のもの。「ちょっとお釣りが多いわよ」などと受け止めてくれるのです。また、書店だけではなく、商店街のイベントのお手伝いも大切な機会になります。就労支援の大人だけではなく、フリースペースに通う子たちも総出で手伝います。他の店主やお客様との対応は子どもたちにとって、自分を認められる有意義な体験となります。

子ども、若者の課題は「反社会的」から「非社会的」なものに変化しています。コミュニケーションを取らず、孤立する子ども、若者とその家族に対し、おせっかいのように関わり続けることが必要であると考えています。また、「不登校」とひとことで表せる課題だけでなく、貧困や虐待なども加わり重層のかつ喫緊の課題が増えています。私たちは一人に寄り添い、一緒に課題に取り組み、お互いに支え合って自立を目指していくという発想が必要です。

DATA（平成28年3月31日現在）

住所 〒238-0017 横須賀市上町2-4

TEL 046-801-7881 FAX 046-801-7882

URL <http://www.npoey.com/>

法人設立年月日 2004年1月13日



二週間に一度、母親の口から聞く息子の話には寒気がした。彼は復讐のために、自室にナイフやロープ、ハンマーなど、武器と称するものを準備していた。

地域の中のもう一つの家族

認定 NPO 法人 ぐるーぷ 藤

理事長 鷺尾 公子さん KIMIKO washio



PROFILE 1992年市民同士のたすけあいの組織を主婦5人で設立。2007年10月高齢者・精神障がい者・幼児園・レストランなどが一つの建物に入った共生型福祉マンション「ぐるーぷ藤一番館・藤が岡」を建設。総工費5億円の大半は融資と地域住民による出資で調達した。2013年認定NPO法人となる。2014年10月市民の居場所“ヨロシク♪まるだい”を開設。2016年9月藤沢市子どもの生活事業業務受託。現在「ぐるーぷ藤二番館・柄沢」を建設中。



それを見せながら
復讐を言いつのり、
ジャージ姿で河原に呼び出され、
プロレスごっこと称するいじめを
延々と受けていた話をした。



1. 節分に手巻き寿司を作りました。芸術的なもの多数!
2. 節分に市役所の職員が扮する赤鬼、青鬼が登場! 新聞紙を丸めた武器で戦闘中
3. 地域のボランティア講師による絵画教室。真剣な表情の小さな画家たち
4. 地域の農家の皆さまより提供いただいた野菜を使った栄養たっぷりの夕飯
5. 文教大学の学生ボランティアと大きなテーブルを囲んで

歳をとっても病気になっても障がいがあっても、 安心して暮らせる街を創りたい

ぐるーぶ藤は、今年 25 周年を迎えました。5 人の仲間とはじめた介護や子育て支援など、生活の中の助け合い活動からはじまりました。当時の「歳をとっても病気になっても障がいがあっても、安心して暮らせる街を創りたい」という理念は今も変わりません。2007 年 10 月には、高齢者住宅、精神障がい者グループホーム、幼児園、小規模多機能型居宅介護、レストランが 1 つ屋根の下に集まった複合型マンション「ぐるーぶ藤一番館・藤が岡」を開所しました。多世代がゆるやかに社会とつながっており、小さな社会がこのマンションにはあります。日本で初めての試みということで各方面から注目されました。

社会・経済の変化に伴い、地域社会では貧困や社会的孤立、虐待、DV など多くの問題を抱えています。その中で、高齢者、子ども、障がい者が安全に暮らせる街づくりを考えることが急務となっています。個々の事業者がそれぞれ動くのではなく、行政、NPO、社会福祉協議会が、協働して街づくりを行う必要があります。私たちは、ふじさわ福祉 NPO 法人連絡会を立ち上げ、行政とも積極的に連携、情報交換をしています。

藤沢市は、高齢者に対する制度だけではなく、子育て支援や障がい者への就労までを含めた、地域共生社会「藤沢型」福祉をめざしています。その線上に、藤沢市初のモデル事業として、地域ささえあいセンター「ヨロシクまるだい」を 2014 年にオープンしました。子育て世代や高齢者の「地域の縁側」として、毎月 1300 人前後の方の利用があり地域に根づいています。そこにも神奈川県をはじめ全国から見学者が訪れ、2016 年 9 月から新しい委託事業として、子どもの生活支援事業「こどもまるだい」がスタートしました。

藤沢市子どもの生活支援事業「こどもまるだい」は、子どもたちが安心して夜を過ごす居場所です。宿題をしたり、ゲームをしたり、おやつや夕飯をいただいたり、教育関係者 OB や文教大学の学生ボランティアと共に過ごします。開所時間は毎週月・水・金 16:00～21:00 で、対象者は小中学生とそのきょうだいです。子どもは無料で利用できます。

藤沢市の農福連携事業を利用して、JA さがみ（わいわい市藤沢店）及び市内農家の皆さまより、野菜を中心とした農産物のご提供をいただいております。子どもたちは、栄養たっぷりのあたたかいご飯を楽しんでいます。季節折々の行事でも食事を大切に考え、できる範囲で子どもたちと一緒につくって、一緒にいただきます。「地域の中のもうひとつの家族」として、あたたかい食事を楽しめることに幸せを感じています。

25 年の地域福祉を実践してきた経験から、今、地域に求められるものは以下の通りと考えます。

- ・互助社会を取りもどすための助け合いの仕組みづくり
- ・「サービスをつくる」ではなく「地域をつくる」
- ・みんなのためにみんなでつくる
- ・人と人の結びつき・支えあいが地域をつくる
- ・想いが地域をつくる

これらは、高齢者や障がい者だけではなく、子どもが安心して成長できる地域づくりにおいても有益です。これまで高齢者がクローズアップされてきましたが、これから社会の中心となる子どもたちを地域全体、社会全体でサポートしていく必要があると思っています。

DATA

住所 〒 251-0004 藤沢市藤が岡 1-4-2
TEL 0466-26-2001 FAX 0466-26-2002
URL <http://www.npo-fuji.com>
法人設立年月日 1992 年 3 月 6 日

何も知らず
せつせと運動で汚れたと思って
洗濯していた日々を思い出して
母親は悔いた。

